



田植え前の準備

米



農業経営支援課
石川 顕史

苗の準備

《育苗中のかん水》

緑化期以降は根の呼吸も活発になります。この時期のかん水が多いと、床土が過湿になり、根の呼吸が妨げられ、マット形状が不良になります。育苗初期は、午前中に1回充分にかん水してください。

苗が大きくなった後期には、1日1〜2回を目安に行います。夕刻のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょう。また、風で育苗箱の隅が白く乾いてしまうので、板等で風よけを作るか、その部分だけをかん水することがポイントです。

《田植え前に箱施用剤で省力防除》

田植え前に箱施用剤を散布することによって、後の防除が省力化できます。必ず行いましょう。(下の図参照)

対象病害虫	残効期間※	ニカメイチュウ	ウンカ類	コブノメイガ	イネミスズウムシ	イネドロオウムシ	ツマクロヨコバイ	いもち病	紋枯病
パディート箱粒剤	80日程度	○	○	○	○	○	○		
ピカピカ箱粒剤	60日程度	○	○	○	○	○		○	
ルーチンアドスピノ箱粒剤	虫:約60日 病:約70日	○	○	○	○	○	○	○	
エバーゴルプラス箱粒剤	虫:約80日 病:約80日	○	○	○	○	○	○	○	○

※残効期間はあくまで目安です。水田の状況により若干前後します。

本田の準備

基肥は入水前に施用し、混和しておくことが重要です。代かきは、田植え2〜3日前を標準としますが、砂質土では1日前、重粘土では3〜4日前と土質により考慮します。

《ジャンボタニシ防除》

スクミノン粒剤

2〜4kg/10a (使用回数2回まで)
田植え直後から防除を行わないと、一晩でかなりの被害となります。(移植後3週間頃までが実害)水中の濁りが澄んでから使用してください。また、散布後7日間は、落水やかけ流しをしないでください。